

令和3年度（2021年度）第1回横須賀市政策評価委員会会議 会議概要

- 日時 令和3年（2021年）7月19日（月）13時30分～15時00分
- 場所 市役所消防局庁舎4階災害対策本部室
- 出席者 **【委員】**
田丸委員長、牧瀬委員長職務代理者、
安部委員、石垣委員、川名委員、小林委員、櫻井委員、馬場委員、松尾委員
（50音順）
（欠席：一条委員、工藤委員、小泉委員、須藤委員、多田委員）
- 【事務局】**
平澤経営企画部長、宮川都市戦略課長、佐野主査、小坪
- 傍聴者 なし
- 資料 資料1 横須賀再興プラン(横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略)
2021年度改訂版
資料2 地方創生関係交付金等事業の進捗状況
資料3 コロナ対応地方創生臨時交付金を活用した主な取り組みについて
- 議事内容 (1) 横須賀再興プラン(横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略)の評価
(2) 地方創生関係交付金事業の評価
(3) (コロナ対応) 地方創生臨時交付金事業の評価

1 最重点施策の柱ごとの意見等

柱1 経済・産業の再興

(1) 横須賀経済のポテンシャルを生かすことについて

(馬場委員)

- ・ 東京－九州フェリーの横須賀～北九州新航路の開設を契機に、更に発展していただきたい。
- ・ 国道 357 号線の整備が進めば、さらに北関東へつながりやすいなど利点は多くなる。

(安部委員)

- ・ 三浦半島は、閉鎖経済圏であり、製造業にとっては原材料、完成品の輸送コストがリスク要因となる。企業流出は、人口の流出にもつながるため、地域特性を十分に分析した取組を推進していただきたい。

(2) 地域経済を支える人材の育成・創出について

(石垣委員)

- ・ 子どものころから横須賀市内の産業、企業に理解や興味をもってもらうため、関係機関の協力を得ながら、小中高生を対象とした企業等訪問会や業務体験会などを様々な業種で実施できないものか。
- ・ 一部業種で実施されていることは承知しているが、商業、工業、農業、水産業、福祉施設他、市内の様々な業種に徐々にでも広がるとよい。

(3) 中小企業等の人手不足、働く人の雇用環境の改善に向けた取組みの推進

(工藤委員)

- ・ 横須賀市、ハローワーク、横須賀商工会議所が就労支援事業に関する協定を締結し、市内雇用対策に取り組むことは、非常によいことである。
- ・ 市内中小企業等のインターネットによる企業情報発信が弱く、就活生に届いていない。「よこすか就職応援ポータルサイト」等により、登録制の企業情報発信等を検討して頂きたい。

(4) 中小企業の活性化について

(松尾委員)

- ・ 地域経済の基盤となる中小企業の活性化に向けて、近年では、法人会も地元のために何かできることはないか模索しているようである。法人会との連携もできるとよい。

(5) 買い物困難者への支援

(松尾委員)

- ・ 高齢者の増加、地元商店の減少などによる買い物困難者がいる地域が増えてきている。移動販売を行うスーパーもあるが、駐車場所の確保が一つの課題になっている。一定のルールを定めて、市営住宅や市が管理する場所を提供したり、個人や民間が所有するスペースの提供協力を募ったりすることで、移動販売や宅配事業の支援とそれらの普及を図るとよい。そうすることで、買い物困難者のニーズに応え、小売店や商店街が元気になるのではないかと。

(6) 横須賀のおいしい食を生かすことについて

(川名委員)

- ・ 横須賀野菜、魚のブランド力はとてもあると感じている。

(馬場委員)

- ・ おいしい食について、さらに周知・広報の重要性が増している。3つの浦（近海）から獲れる海産物、イタリア野菜を含めた三浦半島の野菜など売り出せるものをさらに周知していきたい。
- ・ 域内消費拡大を進めていくにあたり、観光客数および滞在時間を長くすべきであることは明白であるが、「おいしい食」とともに「名産」をつくっていくことも必要である。

(7) 西海岸の魅力向上

(石垣委員)

- ・ 用途地域等の見直しに伴い、東海岸側とは異なる魅力的な施設、例えばアウトレット、(パチンコ以外の)アミューズメント施設、スポーツ施設など、集客に繋がる施設を誘致できるとなるとよい。

(川名委員)

- ・ 外国人の友人達が立石のダイヤモンド富士を撮影しに何度も出かけていた。走水からもダイヤモンド富士を見ることができる。富士山は日本人にとっても外国人にとっても特別魅力なものなので、富士山の見える場所をルートとして提案するのもよい。

(8) 「ローカル 10,000 プロジェクト」について

(石垣委員)

- ・ 事業内容を説明してほしい。

(事務局)

- ・ 将来にわたって地域経済の好循環を作ることを目的として、総務省が推進している取組で、地域の人材・資源・資金を活用した新たなビジネスを立ち上げようとする事業者の初期投資費用を国と市で支援する仕組み。
- ・ 主な事業内容は、「ローカル 10,000 プロジェクト」の募集、市の計画等との整合性などの観点による申請案件の審査、総務省との調整などを行う。

(9) 数値目標および KPI の指標（観光客数と観光客消費額）について

(小林委員・馬場委員)

- ・ 2016年と2019年を比較すると観光客数が増えているが、観光客消費額が減っていることについて説明してほしい。

(事務局)

- ・ 観光客消費額は、観光客数と平均消費単価を乗じて算出しており、平均消費単価が下がったことが原因である。
- ・ 消費単価の高い傾向にある県外からの宿泊観光客が、13%程度落ち込んだことが要因の一つと推測される。

柱2 地域で支え合う福祉のまちの再興

(1) 福祉・介護サービス分野における人材確保

(松尾委員)

- 福祉・介護サービス分野では、従事者の離職も多く、人材確保に苦慮している施設・事業所も多い。雇用促進と定住促進施策とを一体的に進めていくことが、効果も大きく、大切である。市内の福祉施設・事業所等に就職し、一定年数以上市内に居住した方への支援金または貸付金（貸付金の場合は、一定年数以上居住と勤務を継続したときは償還免除）のような仕組みがあるとよい。あわせて、市の「ごきんじょぶ」の取り組みも一緒に進めていく必要がある。

(2) 日常におけるさまざまな不安の解消に向けた相談体制の充実

(石垣委員)

- 「ほっとかん」で行われている食糧支援について、市が困窮する学生、市民のため寄贈を呼び掛けたところ、連日多くの食料品が届いていると聞いている。寄せられた品をより上手く配布する手段の一つとして、関係機関や地元住民の協力を得ながら実施すること、例えば地域生活相談事業を行っている行政センターにて配布するなどを検討されたらどうか。

(3) 市民活動・地域活動に参画しやすい環境づくり

(工藤委員)

- 現在、市民活動支援として、「市民協働推進補助金・市民協働モデル事業」等の補助金支援事業があるが、「市民協働モデル事業」については、3年間のモデル事業を完了した後、具体的に横須賀市の施策として取り入れられる事例は少なく、NPO 団体等にとっても、資金力から、申請事業が途絶えてしまうことも多い。「市民協働モデル事業」は、趣旨として「地域課題の解決」「市民団体と行政が対等な立場で役割分担を定め実施」「市からの委託事業化」「協議会形式による事業化」等、謳われていることから、継続を前提とした予算化等、検討を頂きたい。
- 「市民協働推進補助金」についても、申請は3回までとなっており、市民活動として、行政で出来ないことを民間主導で実施しているが、申請回数の上限があることから、行政にとってメリットのある事業でも、資金面により継続することが困難となっている。制度の見直しを含めた検討を頂きたい。

(4) 地域コミュニティの活性化

(小林委員)

- ・ 高齢者や単身者が増えていく中で、地域コミュニティは、これからさらに重要になっていく。うわまち商店街では定期的にラジオ体操を行っていて、時間になると商店街全体にラジオ体操の音楽が流れ、お店からオーナーさんが出てきて、お隣さんにご挨拶やラジオ体操をしている。ラジオ体操でなくても、このような取り組みを地域で行えば、安否確認はもちろん、近所の交流、助け合いなどが自然と生まれてくるのではないかと感じる。

(5) 障害者ワークステーション事業

(馬場委員)

- ・ 障害者ワークステーション事業を継続し、更に就業についての見える化を加速化していくと優しい地域になると思われる。

(6) 在宅医療・介護連携の取組

(安部委員)

- ・ 医師会の協力もあり、在宅医療・介護連携の取組は素晴らしく、在宅看取り率も他都市より高い水準を保っている。人口減少や人手不足の課題もあるが、地域の力をしっかり活用して、取組を支えていく必要がある。

柱3 子育て・教育環境の再興（整備・充実）

（1）横須賀の特性を生かした教育機会の提供

（小林委員）

- ・ 横須賀市にはベースもあり、アメリカ人と関われる機会は他都市と比べると多いと思う。市民が英語に触れる機会を更に増やし、「英検3級の検定料金の金額助成」というよりも、「中学校3年生で英検3級が取れます！」くらいのインパクトがある施策を打ち出した方が良いのではないか。他市との差別化も含めて、PRの工夫が必要である。

（2）子育て世帯の経済的負担の軽減

（石垣委員）

- ・ 給食無償化を実現できないものか。
子育てには多大な費用がかかるため、産みたくても産めない状況は変わらない。そのような中で、横須賀市では小児医療費や幼稚園・保育園等を無償化し、今年度からは中学校給食を開始するなど負担軽減に繋げていることを評価する。そして、子育て世代の定住を促進するためにも他都市との差別化を図ること、お得感を感じる事が重要である。ましてや子どもの貧困が深刻化する中、経済的に苦しくなった際に切り詰められるのは食費となってしまいうため、給食の意義を食育と、教育の一環と捉え、義務教育費に準じて給食費の負担を無くすことができないものかと思う。しかしながら、無償化には莫大な予算がかかる。持続可能な計画が、継続的な予算確保が必要であるが、国庫補助の採択や財源の確保は難しく実現へのハードルは高い。とはいえ、今後は財源他の課題を抽出し、横須賀方式として例えば基金を創設、寄附を募るなど、実現方法を模索・検討し始めてもらいたい。

（3）小児医療費助成事業

（馬場委員）

- ・ 小児医療費助成事業（中学3年生まで拡大、所得制限の撤廃）は、魅力ある施策の拡大で、移住希望者にもアピールすることができる。

(4) 教育環境の魅力の創出

(櫻井委員)

- ・ リモートが進んで首都圏にいなくても仕事ができる、新しい生活様式が定着してきている。住まいを選ぶとき、地価などの価格とともに、子育て環境や教育水準も気掛かりの一つになる。
- ・ バランスの良い教育を希望する保護者が多い中、学校教育とともに、コミュニティスクールなど地域が教育に関わることの重要性が高まっている。
- ・ 地域で子どもの成長を見守ることで、地域愛も醸成され、将来的な関係人口や交流人口の創出にもつながる可能性がある。

(5) 地域における世代間交流や国際交流

(安部委員)

- ・ 横須賀は、町内会加入率が高く、地域のイベントには、幅広い世代・多様な国籍の住民が参加している。こういった環境を活かした取組を推進していただきたい。

柱4 歴史や文化を生かしたにぎわいの再興

(1) アーバンスポーツ・eスポーツを活用したまちづくり

(馬場委員)

- ・ YOKOSUKA e-Sports CUP については、市民向け認知、市外向け周知を促進し、ブランディングを推進していくのがよい。令和2年度は、オンラインでの開催となったが、今後は、歴史や文化を生かした会場など、魅力的なオフラインの開催など、さらに事業を充実させていただきたい。
- ・ 新しい取組なうえ、オンライン開催となったため、周知が行き届いていないように感じる。e-Sports は、様々な世代が参加できる取組なので、更なる盛り上がり期待したい。

(2) 地域の祭りを利用した観光施策

(松尾委員)

- ・ 観光にも大きく寄与しているような地方の有名な祭りのように、市内各地域の祭りをPRすることはできないか。江戸時代から続いている祭りも多くあるようである。神事が伴う祭りであっても、地方では行政が観光施策の一つとして積極的にPRしているように思うが、日本の伝統文化の一つとして捉えPRすることはできないか。

(3) 日本遺産など歴史遺産を巡る「ルートミュージアム」の構築、新たな周遊ルートの整備による集客の促進

(工藤委員)

- ・ コロナ禍以前は、記念艦三笠への集客向上により三笠公園にも多くの観光客等が訪れていたが、老朽化等により三笠公園への集客力が弱まっている。三笠公園のリニューアルを含め、検討を願いたい。
- ・ ティボディエ邸の開館により、ヴェルニー公園の魅力も高まっている。リピーターを呼び込むためにも「横須賀造船所めぐり」等の動画シリーズの作成等を検討頂きたい。
- ・ ヴェルニー公園は、近年、バラ公園としても人気が高まっている。全国各地のバラ公園は、遠路からも多くの観光客が集まっていることから、「春のローズウィーク」の拡大・周知等の更なる検討を頂きたい。

(4) うみかぜの路を活用した取り組み

(工藤委員)

- ・ 海辺つり公園には、現在、多くの釣り客が訪れ、賑わいをみせているが、家族連れで楽しめるような遊具や飲食等の施設がない。イベントでは、屋台等を見かけるが、家族が1日遊べるような遊具等の設備を検討頂きたい。

(5) スポーツを核としたまちづくりスポーツによる集客促進

(小林委員)

- ・ ウインドサーフィンワールドカップ大会の開催地のわりに、海沿いの賑わいがあまりないように思う。W杯の開催は中止となったが、今後も各地からウインドサーフィンの選手がやってくるのであれば、海側から見える街並みも、考えた方が良いのではないか。

(6) 猿島の活用

(川名委員)

- ・ アートなどさまざまな発信効果の高いイベントの開催は、話題となったので、継続的に続けられると素晴らしい。
- ・ 費用対効果も考え、継続のために市民やNPOなどでも実現できるような事業にしてもよい。
- ・ たとえば、七夕(7月7日)には、毎年うみかぜ公園と猿島の両方を海岸でライトアップするなどが考えられる。継続していけば、話題が広がり将来的な集客につながる。

(7) 横須賀の海が感じられる場所での新たなにぎわいづくり

(川名委員)

- ・ 「佐島や長井地区」は、都心からもそう遠くはなく、とても魅力的な場所である。「すかなごっそ」とも連携してお魚、野菜のお買い物ルートとしてもよい。ただ、佐島、長井地区の海岸通りは道幅がとても狭いという課題を考えつつ、プランを練る必要がある。

(8) 横須賀しょうぶ園の更なる活用

(川名委員)

- ・ しょうぶ園にあるふじ棚は、小規模ながら来訪者を楽しませている。特に、外国人はふじの花をとても魅力的に思っているので、観光の目玉にできるのではないか。

(9) 「ナイトタイムイベント」や「モーニングイベント」の充実

(川名委員)

- ・ ナイトタイムやモーニングタイムを活用したイベントを充実させることが、観光客の滞在時間の延長や消費額の増加につながるのではないか。
- ・ 夜のライトアップや花火、音楽イベントと、翌朝の朝市をセットで企画するなどの工夫で、滞在時間の延長が期待され、観光客にたっぷり楽しんでもらえるのではないか。

その他の重点施策

(1) ファシリティマネジメントの推進

(安部委員)

- ・ 事業を実施するにあたり、イニシャルコストやランニングコストといった費用面、その事業効果について、着手前に十分な検討を行うことが大切である。事業開始前に、外部評価を取り入れて丁寧に取組を進める必要がある。

2 地方創生関係交付金等事業についての意見

三浦半島魅力深化プロジェクトの取組 《プログラミング人材育成事業》

(松尾委員)

- ・ 中高生の参加者が、IT 関連に進学や就職した後も、地域への愛着を持ち続け、横須賀との関わり続けてもらうには、横須賀と子どもたちをつなぐものがあるとよい。
- ・ 市役所前公園に入賞者の名前を刻んだ敷石や手形を敷いたり、バスのアナウンスで一定期間、取組の功績を流したり、よこすか野菜に入賞者の名前の一部をつけたり、本人と横須賀をつなぐ何か残るものがほしい。
- ・ 2020 年度には全国規模のコンテスト (U-22) の予選を 1 名突破し、2021 年度も入賞を目指すことが掲げられている。市全体で、参加している子どもたちを応援している機運をつくることで、子どものモチベーションも高まる。

(小林委員)

- ・ プログラミング経験者をさらに育てるのではなく、イベントに参加してプログラミングに興味を持つきっかけになれば良いと思っている保護者も多いと感じる。

(馬場委員)

- ・ プログラミング事業に中高生が集まり、体験会についても人気と活気があり関心度の高さが伺えた。集中的に投資を行い、ブランディングを目指すとうい。

三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

《海洋関連産業等の創出・集積に向けた人材育成事業》

(松尾委員)

- ・ 子どもたちの海洋に対する関心が高く、将来的に地域の海洋関連産業への就職を希望する声もあるようなので、今後の事業の充実が望まれる。
- ・ 市内には、JAMSTEC だけでなく、海洋学科を設置する海洋科学高等学校や同学校の関連した部活もある。さらに、海産物加工の企業や市場、漁協や漁師さんなど、協力をお願いできる場所はたくさんあると思われる。

(石垣委員)

- ・ 「横須賀海洋クラブ」の結成を高く評価する。
海洋都市横須賀を市内外にアピールすることもできる。
主催は横須賀市でありながら、実に様々な研究機関・民間企業等が協力・連携されており、多くの時間と労力も費やされたことと察するが、子どもたちが各分野の専門家の指導のもと、楽しみながら学ぶことで海洋関連業務を身近に感じ理解するとともに、これを機にそれらの業務に就きたい等、人材育成に貢献されていることを大いに評価する。

(馬場委員)

- ・ 三浦半島ならではの地形を活かした海洋クラブの結成は、独自性が強く海洋資源および海洋環境に更なる興味を持たせることができるので、長期間での継続事業として発展していただきたい。地域資源を活かすということでは、財源を変更しつつも継続していただきたい事業である。

三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

《よこすか野菜 PR 事業》

(松尾委員)

- ・ 「すかなごっそ」は、市内からの来客割合が増加とあるが、市外から観光等で来訪された方の利用の方が多い印象がある。局所的な経済効果だけを見るなら売ればそれでもいいが、今後は、学校給食はもちろん、市内の飲食店にもよこすか野菜を中心に扱ってもらえるような働きかけがあるといい。
- ・ 地方の名産品の PR では、地元民にも日常的に食べられており、その地域の自慢の一つになっているものが多い。よこすか野菜の今後の充実を目指すという点では、まず地元知られて愛されることが大切である。

(馬場委員)

- ・ よこすか野菜の魅力発信は、市内外に対してさらに強化すべき事業である。域内だけではなく、域外への出荷もステイタスを保った形で展開を期待する。
- ・ データに基づくマーケティングにて発信方法を変更し推進していきたい。

三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

《マリンスポーツによるまちづくり事業》

(馬場委員)

- ・ 関係人口を増加させる手法のひとつであるので、半島全体でのブランディングを保ちつつ多角的な魅力発信を期待する。

三浦半島魅力深化プロジェクトの取組
《都市魅力 PR 事業》

(松尾委員)

- ・ 横須賀の音楽といえばジャズ、という割には「ヨコスカ ジャズ ドリームス」や「横須賀トモダチジャズ」といった年 1 回のイベントを除いては、横須賀中央のメインストリートにベンチの銅像もあるが、日常的に意識できる機会が少ないと感じる。
- ・ ジャズだけにこだわる必要はないが、中高生から社会人まで合わせれば、市内にバンド人口は多いと思うので、ジャンル別、世代別のコンテストの開催や、優秀なバンドを表彰し、本人と横須賀をつなぐ何か記念に残るものがあるとよい。

(馬場委員)

- ・ 県の地域の魅力発信事業に追随し、半島各市町の事業の方向性を出して PR しその中での特色を出していく方策はどうであろうか。市（半島）外から地域に対して身近に感じるよう関係人口の創出・定住を促す都市環境の整備を進めていきたい。

ルートミュージアム構築による賑わい創出事業

(馬場委員)

- ・ ルートミュージアム構想は、点在する観光資源の体系立てに大きく貢献しており納得性の高いものである。回遊性を高めるための周知や公共交通機関のルートづくり、来訪目的の複合化を構成することで、域内消費拡大につながる。

(川名委員)

- ・ 近代歴史の曙を楽しく有意義に学べる施設と思う。
- ・ コロナが落ち着き、コロナ後までの集客が少ない時に、市内小学校で学校外での学習施設として最適だと思う。少しでも、子どもたちに横須賀の歴史を肌で感じてもらえるとよい。
- ・ バルコニーから海が見えてロケーションも良いので、将来バルコニーをカフェとしてもよい。カフェは、近くのコルセールと共同でもよい。横浜山手の洋館(エリスマン邸)のカフェなどは大人気である。バルコニーで、プチコンサート(フランスや開国をテーマにしたものなど)もできる。
- ・ 館内で、横須賀の歴史史跡、観光地の写真カードを無料で配布しており、うれしい。日英対訳つきで、英訳のほうが日本語より詳しく書かれていることに、力の入れようを感じる。カードは、地域ごとに符号をつけられていたが、符号が付記された横須賀全体の地図もあると参考になる。
- ・ 訪問した時、ちょうど小栗がアメリカから持ち帰ったネジが展示されていた。NHK大河ドラマでちょうど、ネジの映像が流れていた時なので興味深かった。

ICTを活用した観光周遊の基盤づくり促進による地域活性化推進事業

(馬場委員)

- ・ インフラから発展するだけでなく、魅力あるルートの組成・ストーリー性をもつ設計が重要であり、観光消費につながる形で検証し構築していただきたい。
- ・ 得られたビッグデータの解析にあたっては、流入経路・告知・域内消費拡大の効果をデータ分析することで有効的な施策をうって進めたい。データの所有・利活用者をどのように設定しているのかも重要なエレメントである。

3 (コロナ対応) 地方創生臨時交付金事業についての意見等

(1) コロナ対策に伴う経費負担

(石垣委員)

- ・ 多くの事業が、コロナ対策を意識せざるを得ない1年だったと見受けられる。感染対策として、除菌水やパーテーションの購入等の事務経費負担や、新しい生活様式の実践・推進といった実務負担が重なるなか、様々な支援策を講じられていることで横須賀市役所の奮闘が感じられた。感謝するとともに、引き続き市民に寄り添う支援をお願いしたい。

(2) GIGA スクールの早期実現

(櫻井委員)

- ・ 1回目の緊急事態宣言が出たときに、横須賀市 PTA 協議会で保護者を対象にアンケートを行い、90%以上の保護者が何かしらの IT を使った在宅での教育支援を望む結果が得られた。
- ・ 横須賀の中学校では、1人1台 Chromebook が導入され、授業の場や、生徒の活動の場で有意義に活用されている。オンライン生徒総会を試みた学校もあると聞いている。環境が整ったことに、保護者も非常に安心している。
- ・ GIGA スクールの早期実現に対して、感謝と評価をしたい。

(3) 文化財活用観光促進事業

(川名委員)

- ・ コロナ後のインバウンド市場の回復に合わせた PR として、外国人の興味や関心を踏まえた観光戦略が望まれる。

(4) よこすか「地元のお店」応援券事業

(小林委員)

- ・ 紙の冊子での応援券だけではなく、オンライン決済ができるような仕組みの導入も検討していただきたい。

(5)「中小企業等家賃支援補助金」について

(安部委員)

- ・ 中小企業等の家賃補助は、2回行われたのか。

(事務局)

- ・ 令和2年5月に、新型コロナウイルス感染症の流行により、売上げが減少した中小企業・個人事業主に対して家賃の一部を助成する「中小企業等家賃支援補助金」を創設し、対象企業に令和2年3月及び4月の家賃相当額を補助した。
- ・ 長引く感染拡大状況から、令和2年12月にも、家賃負担を軽減する「横須賀市中小企業等家賃支援臨時給付金」を創設し、対象企業に定額給付を開始した。

予定していた議事がすべて終了したため、閉会となった。